

平成28年度（2016年度）事業報告書

学校法人 福井仁愛学園

目 次

第 1	学園の概要	・・・・・・・・・・	1 頁
第 2	事業の概要		
	I 法人本部	・・・・・・・・・・	4 頁
	II 仁愛大学	・・・・・・・・・・	6 頁
	III 仁愛女子短期大学	・・・・・・・・・・	10 頁
	IV 仁愛女子高等学校	・・・・・・・・・・	13 頁
	V 仁愛女子短期大学附属幼稚園	・・・・・・・・・・	16 頁
第 3	財務の状況	・・・・・・・・・・	18 頁

第1 学園の概要

1 研究科・学部・学科等の状況（平成28年5月1日現在）

学校名	研究科・学部・学科等	開設年度	入学定員	編入学定員	収容定員
仁愛大学	人間学研究科	平成17年度	12	—	24
	人間学部	平成13年度	170	15	770
	人間生活学部	平成21年度	145	5	525
	計		327	20	1,319
仁愛女子短期大学	生活科学学科	昭和40年度	170	—	340
	幼児教育学科	昭和41年度	120	—	240
	計		290	—	580
仁愛女子高等学校	全日制課程	普通科	昭和23年度	—	1,260
		音楽科	昭和53年度	—	25
	計		420	—	1,285
仁愛女子短期大学附属幼稚園		昭和41年度	—	—	230

備考1 仁愛大学は、平成28年4月より、人間学部コミュニケーション学科の入学定員を減員（95人→75人）、人間生活学部子ども教育学科の入学定員を増員（50人→70人）した。

備考2 仁愛女子高等学校は、平成27年4月より音楽科の生徒募集を停止し、普通科にグローバル・サイエンスコースを新設した。

2 各学校・学部・学科等の入学定員・学生数の状況（平成28年5月1日現在）

（1）本科

学校名	入学定員	入学者数	比較増減	編入学者数	在籍者数	対前年増減	
仁愛大学	大学院	12	11	△ 1	—	22	3
	人間学部	170	174	4	3	620	11
	人間生活学部	145	141	△ 4	4	533	14
仁愛女子短期大学	290	273	△ 17	—	549	△ 8	
仁愛女子高等学校	420	400	△ 20	—	1,181	2	
仁愛女子短期大学附属幼稚園	—	67	—	—	189	15	
計	1,037	1,066	△ 38	7	3,094	37	

備考 仁愛女子短期大学附属幼稚園の入学者数は、3歳児の人数。

（2）本科以外

学校名	研究生	科目等履修生	科目等履修生 (聴講生)	特別聴講生	在学者数
仁愛大学	0	0	0	0	0
仁愛女子短期大学	0	1	0	0	1
計	0	1	0	0	1

3 役員・教職員の概要等（平成28年5月1日現在）

(1) 役員等

理事長 禿 了修

役員等	定数	現在数	備考
理事	8人以上10以内	8人	理事長を含む。代表権は理事長のみ
監事	2人	2人	
評議員	17人以上23人以内	19人	

(2) 教職員数

学校名	区分	学部・学科等	常勤	兼任・非常勤
仁愛大学	教員	学長	1	0
		大学院 人間学研究科	1(14)	6
		人間学部 心理学科	17	12
		コミュニケーション学科	15	20
		人間生活学部 健康栄養学科	19	11
		子ども教育学科	14	33
		附属心理臨床センター	1	0
		地域共創センター	1	0
	計	69	82	
	事務職員		38	2
計		107	84	
仁愛女子短期大学	教員	生活科学学科	19	49
		幼児教育学科	13	30
		計	32	79
	事務職員		28	26
計		60	105	
仁愛女子高等学校	教員		63	75
	事務職員		8	9
	計		71	84
仁愛女子短期大学 附属幼稚園	教員		15	7
	事務職員		1	0
	計		16	7
計	教員		179	243
	事務職員		75	37
	計		254	280

備考 仁愛大学大学院人間学研究科の（ ）内数字は兼担教員数。合計に兼担教員数は含まない。
仁愛大学学長と仁愛女子短期大学学長は兼務である。

4 土地・建物・借入金

(1) 土地 (㎡)

	H28. 3. 31現在	増	減	H29. 3. 31現在
大 学	106,910	0	0	106,910
短期大学	44,918	0	0	44,918
高等学校	51,881	0	0	51,881
幼稚園	3,192	0	0	3,192
合 計	206,901	0	0	206,901

(2) 建物 (㎡)

	H28. 3. 31現在	増	減	H29. 3. 31現在
大 学	22,602	0	0	22,602
短期大学	16,646	299	△ 2,884	14,061
高等学校	18,378	0	0	18,378
幼稚園	1,454	1,812	△ 1,429	1,837
合 計	59,080	2,111	△ 4,313	56,878

(3) 借入金 (円)

	H28. 3. 31現在	増	減	H29. 3. 31現在
大 学	0	0	0	0
短期大学	0	0	0	0
高等学校	674,020,000	0	△ 48,150,000	625,870,000
幼稚園	0	0	0	0
合 計	674,020,000	0	△ 48,150,000	625,870,000

第2 事業の概要

I 法人本部

(1) 中長期計画の推進

平成24年度から5ヵ年計画で開始した第1次中長期計画の最終年度にあたり、各部門で計画した各施策について最終的な評価を実施し、概ね計画どおり達成することが出来た。

また、引き続き平成29年度から5ヵ年計画で実施する第2次中長期計画を策定した。

(2) 学園広報の実施

伝統ある学園のイメージを地域社会に発信するため、学園ホームページのリニューアルや県内私鉄における学園広報ポスターの掲示、県内で開催される各種フェアへの学園ブースの設置等を実施した。

(3) 職員研修の実施

情報の共有化による教職協働の推進を目的に、法人の直近の財務状況や第2次中長期計画の目的等について学園の教職員を対象に研修会を実施した。

また、事務職員の自己啓発および業務運営の改善・効率化・課題解決等を図るため、自主的に研修活動を行う職員を支援するために自主研修要綱を制定し、研修を行った事務職員による報告会を実施した。

(4) 内部監査の実施

業務運営及び会計処理の適法性及び妥当性を公正かつ客観的に検証及び評価し、内部監査結果に基づく助言及び提案を行うことにより、法人の健全かつ円滑な運営に資することを目的に内部監査規程を制定し、各部門の会計処理に関する内部監査を実施した。

(5) 理事会開催状況

	開催日	審議事項	審議結果
1	平成28年 5月27日(金)	・評議員（寄附行為第19条第1項第7号）の選任について ・平成27年度事業報告書案について ・平成27年度決算案について ・平成28年度補正予算案について ・基本財産の処分について	原案承認 々 々 々 々
2	8月8日(月)	・教員の採用について ・仁愛大学学則の一部改正について ・仁愛大学学部教員選考規程の一部改正について ・仁愛女子短期大学学則の一部改正について ・平成29年度学納金について ・内部監査室の設置について	原案承認 々 々 々 々 々
3	11月24日(木)	・教員の採用について ・教員の再任用について	原案承認 々

の必要書類を閲覧することにより、学校法人の財産の状況及び理事の業務執行状況を把握した。

② 定期監査

平成 29 年 5 月 20 日（土）に、公認会計士（2 名）と合同で平成 28 年度の財産目録及び計算書類を含めた財産状況について監査し、平成 29 年 5 月 12 日（金）、13 日（土）に、各校の業務について監査した。

監査結果は、「学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。」との監査報告があった。

II 仁愛大学

平成 28 年度仁愛大学重点事項 1～3 に基づき、大学全体として取組みを行った。

① 大学教育の質保証への対応

- (1) 建学の精神の涵養を図る環境や教材資料等の整備、諸行事の活発化に向けた全学的展開
- (2) 3 ポリシーやアセスメントポリシーの新たな策定、学習成果の明確化及び可視化の促進
- (3) 授業方法の改善・改革（FD 活動の活性化、アクティブラーニング手法の拡大等）と学習支援体制（補習援助、自習環境の整備、資格支援等）・IR 活動の充実

建学の精神の涵養については、5 月の開学記念日に合わせ開学記念週間を設定し、記念講演会や関連資料の学内展示、学生への啓蒙活動などを全学的な展開を図った。

大学教育の質保証への対応として、学長のガバナンスのもと 3 ポリシー策定作業部会を編成し、中央教育審議会のガイドラインに基づく 3 ポリシーの一体的な策定を行い、HP 等で公表した。また、アクティブラーニングの推進を図るため、8 月に「3 ポリシーに基づく PDCA サイクル」、11 月に「アクティブラーニングと共同学習」の研修会を実施。教職員の情報の共有化を図った。

学習支援体制としては、学生の自主的学習支援のためのヘルプデスクの設置やラーニング・コモンズでの初年次教育や補習援助等の充実を図った。さらに資格支援として TOEIC の受験支援を引き続き行い、受験者数増加とともにスコアの伸びなど学習成果も確認できた。

② 学生確保の方策

- (1) 外部への情報発信・広報活動の強化による新たな入学層の掘り起こし（地域、学び直し、編入等）や入試方法の改良・改善など学生の確保に向けた取組み
- (2) 第二次中長期計画の見直しの中で、学部・学科構成についての検討

新たな入学層の掘り起こしとして、福井県の県内大学生の定着促進事業を活用し、8 月に奥越・嶺南での出張オープンキャンパスを実施。高校生等への PR を図った。また A0 入試の見直しとともに、平成 30 年度入試から心理学科においても新規導入を行うこととした。

第二次中長期計画の策定にあたっては、改定準備会を編成し約 8 ヶ月にわたり検討を

実施。入学者の確保を命題に、学部・学科再編に向けた取組みを進めることとした。

③ 地域連携・地域貢献の充実

(1) COC+プログラムの本格始動にともなう新たな大学間連携や駅前サテライトの活用

(2) 地域ニーズに対応した教育研究や産業界との連携

越前市の地域貢献活動支援事業や県内大学生の定着促進事業、COC+事業の全学的取組みなど地域連携事業の拡充を図った。

地域ニーズに対応した教育研究については、学長裁量経費を活用し取組みを進めたが、先方の都合により実施には至らなかった。平成 28 年度は、県を含め 5 件の受託事業があった。

(1) 大学院人間学研究科

大学院の教育課程に基づき、臨床心理士受験資格第 1 種指定大学院として、履修指導、研究指導、学外学習などを適正に実施した。また、学外実習施設との意見交換会を 2 回に分けて実施した。

なお、平成 28 年 3 月の修了生の合格率は 60%であり、開設以来これまでに 89 名の臨床心理士を輩出したことになる。

(2) 人間学部心理学科

教育学習支援体制の強化による心理学における専門的知識の修得の充実を図るため、統計ヘルプデスクの継続と心理学検定の受検強化に取組み、心理学検定では 68 名が受験、特 1 級 1 名、1 級 7 名 (8%)、2 級 32 名 (52%) の合格につながった。また平成 28 年度に初めて行ったメンタルヘルス・マネジメント検定にも受検支援を行い、36 名が合格した。(合格率 88%)

広報活動の強化として、編入学者数の増加を目指して広報冊子を作成し、オープンキャンパス等で PR するとともに、学科オリジナル HP の充実を図った。

(3) 人間学部コミュニケーション学科

平成 29 年度からコース別授業が開始されるのに伴い、各コースの説明会を実施し、浸透を図るとともに、企画表現系や現代社会系の授業においてアクティブラーニングを拡充した。また学生の自主的活動の活性化を図るため、TOEIC-IP テストにおいて学年別に目標スコアを設定した受験料補助制度を実施。受験者が 115 名 (昨年 80 名) と大幅増となるとともに、年 2 回受験した学生の約半数にスコアの伸びが見られた。

(4) 人間生活学部健康栄養学科

就職率は 100% (専門職への就職率 69.4%) で、管理栄養士国家試験の合格者は 77 名 (合格率 97.5%) であった。

新入生に対する学科導入教育として本年度も新入生合宿研修会を 1 泊 2 日の日程で実施するとともに、卒業生に対するフォローアップとして、ホームカミングディを開催した。

また、管理栄養士国家試験対策として、特別講座、補習講座、模擬試験等を実施するとともに低学年における試験対策強化を図った。

(5) 人間生活学部子ども教育学科

就職支援に関して、教員採用試験対策・公務員試験対策講座等の実施もあり、小学校教員採用合格 7 名、公立保育士 15 名、保育教諭 2 名を含めて 26 名の公務員合格につながった。なお、就職率は 100% であった。

学長裁量経費で展開した「自己認識シート」を平成 28 年度から全学年対象に実施し、学生自身の学びの振り返りに活用した。

幼保連携型認定こども園制度導入に伴う幼稚園教諭免許・保育士資格取得に係る特例制度による特例科目を開講し、2 コース 23 名の受講があった。

(6) 情報資源センター（附属図書館）

学生に対し、新入生の図書館利用案内、オンライン検索指導をはじめ、利用促進企画として大小 29 件の企画を実施した。さらにラーニング・コモンズでは、学生の能動的学習を支援するため、ラーニングアシスタントによる学生相談や学修支援としての「まなんでこうぞ」の他、教員による各種講座も開催され、延 202 名の学生が参加した。

なお、平成 28 年度末の蔵書冊数は 123, 159 冊である。

(7) 情報資源センター（情報ネットワーク管理室）

本学の情報処理機器及び情報ネットワークの管理運用および利用する学生・教職員への支援事業を中心として活動した。また、学生教育支援活動として、情報関連授業の支援、情報関連検定試験の対策および学内試験の実施、授業時間外学習支援、学生への情報機器の貸出等を行った。

(8) 附属心理臨床センター

大学院生の臨床教育の訓練実習施設として、陪席実習やカウンセリング実習を受け入れたほか、電話当番実習や環境整備当番実習を行い、窓口対応や電話受付、センターの環境整備など心理臨床実践の基礎について指導・助言した。

また、センターとして平成 28 年度は年間 272 日開室し、利用件数については、新規申込ケース数 60 件、インテーク面接導入ケース数 58 件、ケース総数 171 件、総面接件数 2, 023 回であった。このほか、研修員の臨床心理士資格試験対策講座を実施した。

(9) 学生支援センター

厚生補導及び学生生活に係る事業の推進を図り、新入生を対象とした諸行事の充実やサークル活動(体育系 16 団体、文科系 14 団体)の奨励に務めた。また学友会執行部と学長をはじめとする大学教職員との懇談会を初めて開催した。

また、学生の心身のサポートを行うため、保健管理室や学生相談室とも連携した修学支援委員会の設置を行った。

(10) キャリア支援センター

平成 28 年度卒業生の進路については、308 名のうち 291 名が就職を希望し、290 名が就職した(就職率は 99.7%、平成 29 年 5 月 1 日現在)。

計画的なキャリアガイダンスを実施するとともに、学内合同企業説明会、学内個別企業説明会、保護者対象就職セミナー、私立幼稚園・保育園の合同説明会等を開催した。また新たな取組みとして卒業生との交流を深める「キャリアカフェ」を開催し、卒業生 25 名、在学生 10 名の参加があった。さらに COC+事業の一環として、地元企業とのインターンシップにかかる海外視察(台湾)に参加した。

(11) 入学・広報支援センター

平成 29 年度の入学生については、人間学部 163 名(入学定員 170 名、充足率 95.9%)、人間生活学部 141 名(入学定員 145 名、充足率 97.2%)であり、学部全体の入学充足率は 96.5%

と定員を若干下回る結果となった。また、大学院は12名の定員に対し5名が入学した。

昨年よりスタートしたコミュニケーション学科のAO入試は、志願者が11名と増加した。またCOC+事業において10月に福井市と敦賀市で開催された県内5大学進学相談会に参加した。

(12) 英語教育センター

全学生に対する英語学習支援として、1年生対象のプレイスメントテスト・レベル診断テストの実施や、検定試験対策の企画・実施(TOEIC対策講座、TOEIC-IPテスト、TOEIC10%Club等)、「海外語学研修」「フィールドワーク演習(国際交流)」の事前事後指導や期間中のサポートにあたった。TOEIC-IPテストについては、154名(昨年138名)と増加しており、平成28年度からは1年生全員を対象にTOEIC Bridge IPテストも導入した。また、一般市民向けの公開講座の実施、機関紙の発行を行った。

(13) 宗教教育研究センター

教職員・学生を対象に「讃仏会」を月1回程度開催し、延279名の参加者を得た。一般向けの公開講座として、7月に特別招待講座を実施し、104名の参加があった。5月の開学記念週間には、特別講演会を実施し、建学の精神の浸透を図った。また、感話をまとめたセンター報「響流」を発行した。

(14) 地域共創センター

公開講座を30テーマ、41講座開講し、延1,314名の受講者があった。また、駅前サテライトを学生生活の拠点、市民との交流の場や卒業生との連携に加え、本学グッズ、教員書籍の展示頒布など、情報発信基地として活用している。

越前市「丹南産業フェア」、鯖江市「ものづくり博覧会」の他4展示会へ出展し、パネル展示や映像による大学紹介等を行った。また越前市の地域貢献活動支援補助事業には6件が採択され、学生が地域貢献活動を行った。

(15) 総合企画室

地域連携活動事業として、地域共創センターと協働しながら、福井県の県内大学生の定着促進事業補助金に採択され、新規学生の獲得のために、編入学生の確保と学外大学紹介事業に向けた取組みを行った。また福井大学と県内大学連携によるCOC+事業や第2次中長期計画策定に向けた全学的取組みを推進した。

(16) 事務局

施設設備の維持・補修として、C号館防犯カメラ設置工事、学内LAN工事、E号館廊下サッシ改修工事等を実施した。また、CG演習室の機器更新や教室のAV機器の設置・更新を行った。国庫補助金助成として私立大学等経常費補助金、原子力発電施設等地域企業立地支援給付金、COC+大学改革推進等補助金、県補助金助成として私立大学教育振興補助金、結核予防事業補助金等を申請し、計218百万円の補助金が交付された。また、科学研究費補助金(文部科学省、日本学術振興会)に13名の教員が採択され、19,300千円が交付された。

大学の運営に関して、外部有識者との意見交換会(参与会)を11月開催した。

Ⅲ 仁愛女子短期大学

平成 28 年度は①から④の主要事業を重点的に取り組んだ。

① キャンパス再整備事業の完成

開学 50 周年記念事業として平成 26 年度から 3 年計画で取り組んできたキャンパスリニューアルについては、平成 28 年度の B 号館 1, 2 階改修、A 号館解体、B 号館から C 号館への渡り廊下改築、外構アプローチ整備及び記念モニュメントの設置をもって完成した。これにより建学の精神をベースとした学生主体の諸活動の活性や学習成果の更なる向上に向けて取り組む環境が整った。

② 教育の質保証にむけた取り組み

平成 29 年 4 月からの制度化に伴う三つの方針の策定・公表については、建学の精神をベースに文部科学省が示す学力の 3 要素に沿った内容に改変し、教育活動の明確化・可視化を図った。

③ 地域連携への取り組み

福井市との包括連携及び森田地区まちづくり協議会との連携は、新規事業に取り組むなど活発な活動に努めることで、多様な学習の場での体験を通して学生の実践的能力の育成と社会性の向上を図るとともに、地域の振興や課題解決に寄与することができた。

④ 財政基盤の安定化

施設改修事業が継続される中、収入及びコスト構造を把握・分析し、定常的な教育・研究活動に支障のない、安定した予算執行に努めた。

(1) 生活科学学科

学生支援として検定・資格・免許等取得のための対策講座の充実を図るとともに、情報化社会に適応するために、ICT 活用力の向上を意識した教育に取り組んだ。特に資格習得の支援に関しては、補習講座等を積極的に開催し、各専攻において成果を収めることができた。

生活環境専攻では、デザイン能力の向上に重点を置いた学習成果を活かして様々な作品を制作し、積極的に活動を行った結果、数多くの作品が入賞し高い評価を得た。特に、今年度は、福井市の新たな特産野菜ふくいサラダニンジンのネーミング「きゃろふく」とロゴマークの作成や福井市生活習慣病予防キャンペーン「ベジ・ファースト」ロゴマーク・ポスターの作成を行った。

生活情報専攻では、ICT 活用等の学習成果を活かし様々な学外活動に取り組んだ。特に福井市観光物産館「福福館」の指定管理者でもある株式会社大津屋さんと協働で、JR 福井駅前（ハピリンを中心）の活性化策についてタブレットを活用して調査等を行い、最終プレゼンテーションをハピリンで実施した。また、坂井市にあるショッピングモール「アルプラザアミ」と共同研究事業を昨年同様実施し、今年度はインスタグラムやツイッターといった「SNS への写真投稿とマーケティングニーズの再発見」というテーマで取り組んだ。学内では、学生の資格・免許等取得のための対策講座を開催し、充実に努めた結果、情報処理士 97.4%、ビジネス実務士 76.6%の取得率であった。その他取得を推奨しているパソコン関連、簿記、英検等の検定試験においても受験し多数の合格者を出すことができた。

食物栄養専攻では、福井市との包括連携事業として「ふくふくベジ・ファースト応援事業」におけるベジ・ガールズ活動や「越前福井の美味 PR 事業」における食育フェスティバル活動、地元では森田地区文化祭への参加など積極的に学外活動に取り組んだ。また、資格・免許等

取得のための支援を行った結果、フードスペシャリスト資格の合格率は63%、平成28年12月に実施された栄養士実力認定試験の結果は、A認定74.4%、B認定23.1%、C認定3.5%であった。

また、各専攻においてデザイン研修旅行（瀬戸内：生活環境専攻）、北陸テクノフェア見学会（福井市内：生活情報専攻）、食文化研修旅行（金沢市：食物栄養専攻）を実施し、各分野における専門知識を深める機会の拡充に努めた。

(2) 幼児教育学科

幼児の理解及びその指導に関する専門的知識と技能の教授研究を通して心豊かで有能な人材を育成するために、平成28年度は、以下の項目に重点を置いた教育・研究に取り組んだ。

- ・幼児教育者として学生の人間性の向上を図るとともに保育・教育実習の充実を図るため、現職保育者等による講座等を多数実施した。保育所実習懇談会を開催し、20園を超える出席者を得て実習園園長等から保育所実習に関する問題点等を聴取し、改善策を検討した。
- ・選択履修プログラムの改編を行い、保育士養成課程の教科目変更申請を行った。従来の「保育内容（コーラス）」及び「保育内容（キーボード）」を「音楽表現演習」に、「保育内容（ダンス）」及び「保育内容（ミュージカル）」を「身体表現演習」に、「保育内容（平面造形）」及び「保育内容（立体造形）」を「造形表現演習」に、「保育内容（ことばの文化）」及び「保育内容（保育の文化）」を「言語表現演習」にそれぞれ統合し、1年次後期の時間割上2コマ開講することにより、学生の希望に応じて2分野まで履修できるようにした。また、従来2年次後期に開講されていた「表現総合演習」を削除し、学生が自らの課題を探究して主体的な学習（アクティブ・ラーニング）を行うことができ、また、多様な学生にきめ細やかな対応が可能な少人数でのゼミ形式で行う「保育表現演習」（2年次通年）を新設した。
- ・平成26年度から3年間の学長裁量経費事業の最終年度にあたり、福井県内の幼稚園・保育所・認定こども園すべてを対象にアンケート調査を行った。「養成校で身に付いた資質・能力」と「保育現場で必要とされる資質・能力」との関係性についてまとめ、学習成果の検証のために有効な資料を得ることができた。平成29年度には、この研究を基に学習成果の見直しを行う計画である。
- ・卒業生に対する支援の充実を図るため、地域活動実践センターと共催で「新人保育者スキルアップ講座」及び「幼教フォローアップ講座」を実施した。「幼教フォローアップ講座」については、初めて仁短祭と同時開催を試みたが、参加者は少数であった。卒業生との連絡方法などについて、今後も検討が必要であるという認識を得た。
- ・資格取得支援については、MH等に於いてクラスアドバイザーによる指導を徹底した結果、資格取得者数は、幼稚園教諭二種免許121名(95%)、保育士資格123名(97%)、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格126名(99%)、レクリエーション・インストラクター資格36名(28%)であった。（卒業生総数127名に対する取得率）
- ・就職支援については、学科と就職支援課との連携を密にし、保育士58名(49%)、保育教諭48名(40%)、幼稚園教諭6名(5%)、福祉施設指導専門員4名(3%)、介護職1名(0.8%)、事務職1名(0.8%)、製造業1名(0.8%)という実績であった。（就職者119名に対する割合）

(3) 学生部

2018年問題を目前に控え、教育の質保証と学生の満足度の向上が問われる中、最終年度を

迎えたキャンパス整備への対応も含め、ハード、ソフト両面にわたる教育環境、システムの充実に全教職員と連携して取り組んだ。

学生募集活動では、本学の教育実績をアピールするため、OGを活用したPR活動（入試説明会等での本学OGの講演、OGの活躍紹介パンフレットの発行など）を行った結果、入学定員には至らなかったが95.1%の入学生を確保することができた。

教育の質保証では、学習成果の可視化（棒グラフへの変更とGPA分布図の追加など）の改善を行った。さらに、教学IRに関する全学対象の研修会開催、GPAによる学修指導（注意勧告・退学勧告）の規定化・実施、CAP制導入の規定化（平成29年度から実施）を行った。また、従来から活用している学務システム「Active Academy」をWindows10対応の「Active Academy Advance」にバージョンアップした。

学生のモチベーションの向上では、新館を活用した仁短祭や年末イベントなどを企画するとともに、学生ホールの大型モニターでの学生への情報発信を積極的に行った。北陸三県体育大会については、主幹校として学生ボランティア55名の参加を得て、教職員、学生が一丸となって大会運営に取り組んだ。試みとして全学的な壮行会など、モチベーション向上に取り組んだ結果、成績も含めて成功裏に終わることができた。また、心と体の健康支援では、学生相談室と保健室の月例会議開催などを定例化するとともに、関連部署、学科、専攻との連携を密にし、支援力強化に努めた。

キャリア教育では、就職支援体制の見直しや学生の就活情報共有システム等の活用による的確かつきめ細かな支援、学内合同説明会への参加企業数の増加などに取り組んだ結果、99.6%（平成29年5月1日時点）の就職率を達成した。また、直近3年間の就職先事業所に対し行ったディプロマ・ポリシーと社会人基礎能力との整合性を問うアンケート調査では、概ね良好との評価を得た。

(4) 地域連携活動

地域活動実践センターでは学科、専攻の特色を生かした公開講座、講習会を開催した。また、森田地区との連携による森田地区まちづくり支援事業では、「もりた夢駅・夏物語」での福井大学学生グループと連携したトレインアドベンチャーの実施、もりたエコキャンドルへの参加、「地区文化祭」での企画・販売などを行った。これらに加えて、JR森田駅「夢ギャラリー森田」で作品展示を6回開催。特に9月は図書館主催による50周年回顧展を開催し新聞にも取り上げられた。「幼児向け英語教室」では幼児が楽しみながら英語に触れる機会を5会場にて提供した。

仁短祭では、外国人講師を招き子ども向け英語講座を実施した。例年同様に、幼児とその保護者の参加に加えて、生活情報専攻生と講師が英語で交流をはかり異文化に触れる機会を提供した。また、地元森田地区からの模擬店出店、キャンパス見学等も実施し、地域に開かれた大学として地元との積極的な交流を行った。

平成28年度の新規事業としては、福井市との包括連携協定（平成27年度締結）により、特産野菜のネーミング・ロゴマーク作成事業、ふくふくベジ・ファースト応援事業（野菜から食べる習慣の啓発）、越前福井の美味PR事業、輝く女性の未来予想図事業（講演会）等の14事業（継続事業を含む）を福井市と連携して実施。地域貢献活動の推進に繋がった。これらに加えて、福井市観光物産館「福福館」、アオッサ等において卒業研究発表会、授業でのインターンシップ活動、ボランティア活動等を実施するなど、積極的に公共施設を活用。学生の体験学習の場に資するとともに、本学の認知度のアップにも貢献した。

平成 24 年度から福井市の業務委託による子育て支援・相談事業(アオッサ内)については、子育て支援室の延べ利用者数は 16,564 名、相談の延べ件数は 1,726 件であった。平成 28 年度は業務委託の最終年度となるが、次期委託期間(平成 29 年度から 3 年間)についても地域の子育て支援機関として引き続き今後の取り組みを強化していきたい。

(5) 附属図書館

短期大学に位置づけられた附属図書館の役割として、学習・研究に寄与できる情報提供と学生の読書活動の推進を図った。

また、図書館がコミュニケーションの場となるような月 1 回の企画展、図書館ポイントカードサービス制、図書館サポーター制の運用及び最多図書利用者の表彰など、様々な取り組みの結果、入館者数が前年より約 5,500 人増加し、学生一人当たりの貸出冊数も 20 冊以上となった。

加えて今年度は、福井地区大学図書館協議会会長校として、6 月に定例会議、8 月に総会・研修会を開催した。

IV 仁愛女子高等学校

「丁寧で、分かりやすく、面倒見の良い指導を通して、一人ひとりの生徒に確かな学力と健康で豊かな心を土台とした『生きる力』を身に付けさせ、それぞれの生徒が希望した進路を達成させる」ことを目標として、次の 9 項目を重点的に日々の教育活動を行った。

(1) 建学の精神の涵養

み仏の教えを仰ぎながら、与えられたいのちに素直に「感謝」できる人間、自他ともに「おもしろいやり」をもてる人間、明るい笑顔で進んで「あいさつ」のできる人間、自信を持ってあきらめずに社会に「奉仕」できる人間に育てるため、朝終礼を徹底し、「宗教」の授業及び下記の行事を通して宗教的情操教育の充実を図った。

花まつり(H28.4.8 講師:学園長先生)、創立記念日(H28.5.12 講師:初岡 春樹氏 演題:「仁愛のこころ」)、成道会・報恩講(H28.11.25 講師:浄土真宗僧侶・武蔵野大学仏教文化研究所研究員 小森 英明氏 講題:「いのちが笑う、仏が笑う」)、聖徳太子奉讃会・学校関係物故者追弔法要(H28.2.22 講師:真宗大谷派吉崎別院職員 波戸 章氏「みんな尊いんだよ」)、一年生こころの研修(H28.4.26~28)、金曜会(12回実施)を行った。

また、毎日の朝終礼の進行は生徒主導で行い、生徒自らが宗教的情操教育の一端を担う環境づくりにも努めた。

(2) ボランティア活動の推進

「全ての命あるものの共生と敬愛」の具現化のために、ボランティア委員会(生徒会)やチームボランティアを中心に、下記の様々なボランティア活動を行った。

夏期休暇中、クラスボランティアで延べ 1,064 人の生徒が学校周辺や福井駅周辺の清掃活動に参加した。また要請ボランティアでは、障害者施設「ハスの実の家」や「あかね」、介護施設「メイプルケア」での様々な補助活動に参加した。募金活動は、4・5・6・9・11 月に計 8 回実施し、延べ参加人数は 224 名で昨年よりも 42 名増加した。

その他、ソロプチミスト福井と連携した足羽学園への支援活動、宗教部児童文化研究会による足羽組児童研修会、聖徳保育園、ふじしま保育園等での子供会活動補助、コーラス部に

よる福井東特別支援学校、日赤福井病院でのミニコンサート等多岐に渡るボランティア活動を行った。

(3) 部活動の強化

12 の運動部と 21 の文化部が、生徒の自主性と個性を尊重しながら、健全な心身の育成を目指して活発な部活動に取り組んだ。

主な活動実績は下記のとおりである。

運動部では、テニス部が県春季高校総体 37 年連続 43 回目優勝、北信越高校テニス選手権大会団体準優勝、県高校新人大会団体・個人完全優勝という輝かしい成績を上げた。バスケットボール部は県民スポーツ祭優勝、北信越高校新人大会準優勝、弓道部は県民スポーツ祭近の団体優勝、ハンドボール部は県民スポーツ祭準優勝という成績を上げた。

一方文化部関係では、コーラス部が「第 84 回 NHK 全国学校音楽コンクール福井県コンクール」金賞、「NHK 全国音楽コンクール東海北陸ブロック」銅賞、「第 69 回全日本合唱コンクール中部支部大会」銀賞を受賞した。また、マーチングバンド部が、「マーチングバンド北陸大会」金賞、「第 44 回 マーチングバンド全国大会」で銀賞、吹奏楽部が「中部吹奏楽福井県予選」で金賞を受賞した。

なお、その他の運動部・文化部も、それぞれが好成績を収めている。

(4) 進路実績向上への取り組み

長期休暇中の課外授業、希望者に対する特別課外授業、河合塾サテライト講座、放課後の自習室開放などを引き続き実施し、特進コース生や英留コース生が国公立大学や有名私立大学へ合格できるよう学習環境の整備に積極的に取り組んだ。

また、就職希望者には課外などを実施するほか、検定や資格取得に向けた支援を行い、年内に全員が内定を得られるように指導した。

主な進路実績は下記のとおりである。

●国公立大学 70 名 合格

弘前大学(医学部・医)1名、金沢大学5名、福井大学25名、名古屋大学1名、大阪教育大学3名、国際教養大学1名、福井県立大学12名、大阪府立大学1名 など

●私立大学 298 名 合格

仁愛大学52名、青山学院大学1名、中央大学4名、津田塾大学1名、東京女子大学3名、明治大学2名、立教大学3名、早稲田大学2名、福井医療大学23名、京都女子大学16名、同志社大学2名、立命館大学9名、関西大学2名、関西学院大学9名 など

なお、仁愛女子短期大学には、生活デザインに11名、生活情報へ23名、食物栄養へ13名、幼児教育学科へは30名、合計で77名が合格した。

また、就職希望生14名は、全員希望する企業への就職を果たした。

実用英語検定では1級に1名、準1級に14名、2級には101名が合格、その他にもワープロ検定や情報処理検定・簿記検定など、様々な検定に多数合格し資格を得た。

(5) 併設校との連携強化

地域社会に貢献する女性を輩出することを目的に、「高短連携推進委員会」(H29.1.16)や「3年担任対象説明会」(仁短:H28.5.12 仁大:H28.5.24)等を通して、高短・高大一貫教育実施の方向性を模索した。

また、進学後のミスマッチを防ぐため、連携授業（H. 28. 7. 13, 9. 15, 12. 12, H29. 3. 14 環境デザイン系・情報系・栄養系・幼児教育系・大学教養系・看護医療福祉系の6グループで実施）・説明会（仁短：H28. 5. 12, 6. 4, 11. 25 仁大：H28. 5. 24, H29. 2. 22）・オープンキャンパス参加（仁短 H28. 6. 19, 8. 7 仁大 H. 28. 6. 19, 7. 17, 8. 6, 9. 11）・入学前教育（仁短 H. 28. 12. 15, H29. 2. 22 仁大 H. 29. 2. 23）などを実施した。

(6) キャリア教育の推進

生徒が、自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力を身につけられるように、各コースで下記のように体験学習や講演会を企画し、キャリア教育の充実を図った。

商業コースでは、職業選択（ようこそ先輩）講演会（H28. 5. 12）、インターンシップ（H28. 7. 21～H28. 8. 26）、インターンシップ報告会（H28. 10. 29）を実施し、自らの将来設計の一助とした。

また、英語留学コースではエデュケーション・フォーカスのスタッフによる「キャリア講座」を3回行い、一人ずつの面接の実施と個人の適性や課題などを記入した個人カルテ（レポート）を作成し、留学前後における生徒個人の適性や課題などを意識する取り組みを行った。

(7) 学校評価事業の実施

生徒や保護者および社会から信頼される学校であるために、「保護者対象学校評価アンケート」を1学期末と2学期末の2回実施した。1回目のアンケート結果は管理職会議、運営委員会、各科コース会議で協議を重ね、関係部署で具体的な改善策を立てた。その改善策を確実に実行に移し、実際効果がどれほどあったかを測るために2回目のアンケートを行った。保護者にはアンケート結果報告と今後の取り組みについて、それぞれ書面にて報告し本校ホームページ上にも公開した。

学校関係者評価は教育振興会役員に評価委員を委嘱し、意見聴取および今後の学校運営の方向性について助言を頂いた。

また、授業力アップのための授業評価アンケートも2回実施した。アンケート結果は各担当者に周知した後、教科会で問題点の検討を行った。

(8) 広報活動の充実

学内外に本校の教育内容をより深く理解してもらうために、下記のような広報活動を実施した。

学内に対しては、J-H o t t o（生徒と保護者対象情報紙）を11回発行するとともに、インフォメーションボードの活用およびホームページの充実やタイムリーな情報更新を図った。

一方、学外に対しては、中学生やその保護者に本校の教育内容をより深く理解してもらうために、5月～1月には福井新聞速習セミナーの広告（月4回）、11月は福井新聞学力診断テスト解答下に広告を掲載した。また7月～8月にかけて「オープンスクール」への誘導テレビCMを、10月～1月にかけてはブランド認知CMを流した。

説明会や見学会は、「オープンスクール」（H28. 8. 11 中学3年生965名、保護者が326名参加）、「学習塾対象説明会」（H28. 11. 24 塾50名参加）、「中学生保護者対象説明会」（H28. 11. 20, 12. 4 94組参加）、また、10月～12月にかけて、22の中学校から生徒が本校を訪問しての説明会・見学会等を実施した。

(9) 新コース「グローバル・サイエンスコース」における教育内容の充実

4月～1月までにグローバル・サイエンスコース推進委員会を14回開催し、コース全般の

運営や生徒に関する情報を共有し、一人ひとりの生徒に対応した指導をするよう心掛けた。

また、教員の授業力向上に繋げるために下記の研究会に理科教諭2名が参加した。

・足羽第一中学校にて福井県中学校理科教育研究会(H28.11.22)

さらに、中高の授業の連携をスムーズにし、中学校で行われている授業の内容をより一層深く理解するために、本校にて福井市中学校理科教員対象公開授業(H28.9.27)を行い、様々なアドバイスをいただいた。

その他、以下のような講演会や実習に生徒を参加させ、様々な体験を通して座学だけでは得られないことを学習する機会を与えた。

主な活動【1・2年生合同】

7/15(金)講演会及び交流会：オリィ研究所 結城 明姫先生

8/25(木)～8/26(金)鯖江青年の家にて、宿泊英語研修

11/2(水)8:00～17:00宇宙関連の展示と出前授業参加

11/20(日)科学の祭典：エンゼルランドにて参加。1年3名、2年10名

【1年生】

8/4(木)～8/5(金)1年生臨海実習：若狭海浜自然センターにて

8/22(月)8/24(水)12/22(木)12/26(月)1年生課題研究発表会

3/9(木)～3/24(金)1年生オーストラリア海外研修

【2年生】

7/27(水)～7/28(木)2年生野外実習(奥越青年の家)

11/28(月)11/30(水)2年生課題研究中間報告会

V 仁愛女子短期大学附属幼稚園

平成28年度は、開園50周年記念事業として、新園舎改築・落成、開園50周年記念式典の挙行及び記念誌の発刊を実施した。園舎改築期間(H28.5～H29.2)は仮設園舎での生活となるため、園児に対しては例年通りの経験ができるように心がけた。また、指導計画の十分な検討を行うとともに、行事についても場所や内容を深慮した。仮設園舎といえども、広くて冷暖房も完備されていたことから夏冬共に過ごしやすく、例年になくインフルエンザ罹患者が少なかった。2月末に新園舎へ引越し、年長児は3週間の短い期間ではあったが、快適な生活を送って卒園することができた。

(1) 開園50周年記念事業

1. 平成28年4月30日 旧園舎とのお別れ会(午前、午後延べ700名参加)
2. 平成28年5月7日 仮設園舎への引越し作業及び旧園舎清掃(園児・保護者)
3. 平成28年6月29日 起工式 新園舎工事着工
4. 平成29年2月19日 落成式(在園児及びその保護者)
5. 平成29年2月25日 新園舎への引越し(～2月26日)
6. 平成29年3月4日 開園50周年記念式典の挙行(於：仁愛女子短期大学体育館)
来賓・旧職員・保護者・園児など約700名参加
7. 平成29年3月5日 新園舎一般開放(約200名参加)

- (2) 子育て支援事業
1. 2歳児入園、年間預かり園児 受け入れへの充実
 2. 未就園児対象にちびっこクラブを開催
 3. 在園児・卒園児を対象としたキッズ・コーラスの実施
- (3) 教育活動事業
1. 天池河川公園を利用した自然体験、園外保育の実施
 2. 外国語に慣れ親しむ活動（年長児を対象に「ハロータイム」を年10回）
 3. エコ活動への参加（ゴーヤのグリーンカーテン・どんぐりの森作り）
 4. 食育活動への参加（畑づくり・クッキング・箸の正しい使い方の指導）
- (4) 地域連携・社会貢献事業
1. 保護者会との連携
園児の図書貸出し手伝いと読み聞かせや、交通安全の指導
 2. おばあちやまクラブとの連携
様々な教育活動（やきいも・もちつき等）の支援
 3. 仁愛大学・仁愛女子短期大学との連携
教育実習生の受入、保育研究会への指導・助言
 4. その他の連携
森田小学校区 保幼小連携会議参加
老人介護福祉施設訪問（2ヶ所）
地域の職場見学（時計店、郵便局）
坂井高校のインターンシップ生4名を受け入れ
- (5) 幼稚園の主たる事業
1. 毎月事業

誕生会	毎月実施（ミニミニコンサート含む）
交通安全指導	年10回実施
避難訓練	年8回実施火災・地震・不審者対応など
園内安全点検	年6回 2ヶ月毎に実施
- (6) 幼稚園教諭の資質向上
1. 研修会・研究会などへの参加、報告会の実施（各教諭 3回）
 2. 宗教談話会の実施（年2回 講師：学園長）

第3 財務の状況

1 決算の概要

以下、資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の順で、平成28年度決算の概要を説明する。

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する全ての資金の収入と支出の内容、残高（繰越支払資金）を集計した計算書である。

表1は平成28年度資金収支計算書、表2は3ヵ年の資金収支計算書の経年比較である。

当年度の資金収支の規模は5,904,753千円、前年度と比べて238,547千円増加となった。

これは主に、1)短期大学及び幼稚園部門の50周年施設整備事業に伴う特定資産の取崩による収入（その他収入）の増加及びそれに対応した施設関係支出の増加、2)大学及び高校、幼稚園部門の退職者に係る退職金交付金収入及び退職金支出の増加によるものである。

表1 平成28年度 資金収支計算書

単位：千円

収入の部	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	差異
学生生徒等納付金収入	2,303,235	2,301,846	1,389
寄付金収入	81,990	82,911	△ 921
補助金収入	913,451	919,730	△ 6,279
その他収入	1,485,347	1,485,309	38
前年度繰越支払資金	1,114,957	1,114,957	0
収入の部合計	5,898,980	5,904,753	△ 5,773

支出の部	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	差異
人件費支出	2,259,373	2,250,648	8,725
教育研究経費支出	716,403	703,319	13,084
管理経費支出	406,083	393,287	12,796
施設関係支出	1,141,689	1,138,347	3,342
設備関係支出	136,656	128,877	7,779
その他支出	220,031	208,267	11,764
翌年度繰越支払資金	1,018,745	1,082,008	△ 63,263
支出の部合計	5,898,980	5,904,753	△ 5,773

表2 資金収支計算書 経年比較表

単位：千円

収入の部	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額	平成28年度	
			決算額	対前年度比較
学生生徒等納付金収入	2,356,219	2,294,732	2,301,846	7,114
寄付金収入	63,771	85,347	82,911	△ 2,436
補助金収入	849,465	998,613	919,730	△ 78,883
その他収入	887,912	1,186,714	1,485,309	298,595
前年度繰越支払資金	1,023,557	1,100,800	1,114,957	14,157
収入の部合計	5,180,924	5,666,206	5,904,753	238,547

支出の部	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額	平成28年度	
			決算額	対前年度比較
人件費支出	2,155,373	2,149,624	2,250,648	101,024
教育研究経費支出	647,513	677,245	703,319	26,074
管理経費支出	328,379	383,584	393,287	9,703
施設関係支出	188,498	709,268	1,138,347	429,079
設備関係支出	131,780	152,805	128,877	△ 23,928
その他支出	628,581	478,723	208,267	△ 270,456
翌年度繰越支払資金	1,100,800	1,114,957	1,082,008	△ 32,949
支出の部合計	5,180,924	5,666,206	5,904,753	238,547

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書（表1）の資金の動きを、次の3つの活動に分類し、活動区分毎の資金の流れを示したものである。

< 3つの活動区分 >

I 教育活動による資金収支

教育活動、研究活動（Ⅱ・Ⅲ以外の全て活動）

Ⅱ 施設整備等活動による資金収支

施設や設備の取得又は売却、その他これらに類する活動

Ⅲ その他の活動による資金収支

財務活動、収益事業、預り金等経過的な活動、過年度修正の4項目

表3は、平成28年度の活動区分資金収支計算書である。

当年度は、Iは+118,347千円（収入超過）、Ⅱは△51,764千円（支出超過）、IとⅡ合わせて+66,583千円（収入超過）となった。対前年度比較で+272,500千円であるが、これは、短期大学と幼稚園部門での大規模な施設整備事業を、自己資金（特定資産の取崩し）で対応したためである。

Ⅲは借入金の返済支出や特定資産への繰入支出のため△99,532千円（支出超過）、対前年度比較で△319,606千円となった。前年度は臨時的な有価証券売却収入や特定資産取崩収入があったためである。

結果、IⅡⅢの合計である△32,949千円が、翌年度繰越支払資金の減少となった。

表3 平成28年度 活動区分資金収支計算書

単位：千円

区分		平成27年度 決算額	平成28年度 決算額	対前年度 比較	
I 教育活動 による資金 収支	収入	① 教育活動資金収入計	3,443,582	3,499,597	56,015
	支出	② 教育活動資金支出計	3,210,453	3,347,254	136,801
		③ 差引 (①-②)	233,129	152,343	△ 80,786
		④ 調整勘定等	△ 12,782	△ 33,996	△ 21,214
		⑤ 教育活動資金収支差額 (③+④)	220,347	118,347	△ 102,000
II 施設整備 等活動 による資金 収支	収入	⑥ 施設整備等活動資金収入計	853,450	1,137,487	284,037
	支出	⑦ 施設整備等活動資金支出計	1,168,553	1,300,792	132,239
		⑧ 差引 (⑥-⑦)	△ 315,103	△ 163,305	151,798
		⑨ 調整勘定等	△ 111,161	111,541	222,702
		⑩ 施設整備等活動資金収支差額 (⑧+⑨)	△ 426,264	△ 51,764	374,500
	⑪ 小計 (⑤+⑩)	△ 205,917	66,583	272,500	
III その他の 活動 による資金 収支	収入	⑫ その他の活動資金収入計	377,313	91,848	△ 285,465
	支出	⑬ その他の活動資金支出計	157,239	191,381	34,142
		⑭ 差引 (⑫-⑬)	220,074	△ 99,533	△ 319,607
		⑮ 調整勘定等	0	1	1
		⑯ その他の活動資金収支差額 (⑭+⑮)	220,074	△ 99,532	△ 319,606
	⑰ 支払資金の増減額 (⑪+⑯)	14,157	△ 32,949	△ 47,106	
	⑱ 前年度繰越支払資金	1,100,800	1,114,957	14,157	
	⑲ 翌年度繰越支払資金 (⑰+⑱)	1,114,957	1,082,008	△ 32,949	

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、一般の企業会計でいえば損益計算書にあたり、単年度の事業活動の収入と支出を対比、収支差額を算出し、収支の均衡状態を把握するためのものである。

事業活動収支計算書では、まず、経常的な収支と臨時的な収支（特別収支）に区分し、経常的な収支はさらに「教育活動収支」と「教育活動外収支」に分け、最終的には次の3つの活動区分として集計する。

< 3つの活動区分 >

I [経常的] 教育活動収支

経常的な教育活動の収支（Ⅱ・Ⅲ以外の全て活動の収支）

Ⅱ [経常的] 教育活動外収支

経常的な財務活動と収益事業活動の収支

Ⅲ [臨時的] 特別収支

施設設備、資産の売却・処分に係る事業活動の収支

表4は平成28年度の事業活動収支計算書、表5は3ヵ年の事業活動収支計算書の経年比較である。

当年度の経常収支は、△269,388千円（支出超過）となり、内訳としては、教育活動収支差額が△269,798千円（支出超過）、教育活動外収支が+410千円（収入超過）であった。

教育活動収支が支出超過になる要因としては、学生生徒等納付金収入の伸びなやみや、平成28年度の限定的な支出である短期大学部門のA館解体費（約62,000千円）、幼稚園部門の仮設園舎リース料（約59,000千円）の支出の影響等が挙げられる。

特別収支としては、施設設備に係る寄付金収入や補助金収入に対し、資産処分差額が下まわり、+24,364千円（収入超過）であった。

以上、経常収支と特別収支を合計すると、基本金組入前当年度収支差額は、△245,024千円の支出超過となった。

施設設備等の資産の取得金額にあたる基本金組入額は、短期大学部門の50周年施設整備事業を中心に465,253千円となり、基本金組入額を減じた当年度収支差額は、△710,277千円の支出超過となった。

前年度繰越収支差額△2,920,749千円と法人本部部門の基本金取崩額37,175千円を合わせると、翌年度繰越収支差額は△3,593,851千円（支出超過）となった。

表4 平成28年度の事業活動収支計算書

単位：千円

区分		平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	差異		
I 教育活動 収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	2,303,235	2,301,846	1,389	
		手数料	46,039	47,055	△ 1,016	
		寄付金	58,990	58,941	49	
		経常費等補助金	843,364	849,201	△ 5,837	
		付随事業収入	81,683	84,594	△ 2,911	
		雑収入	110,552	117,922	△ 7,370	
		教育活動収入計	3,443,863	3,459,559	△ 15,696	
	事業活動 支出の部	人件費	2,221,410	2,192,079	29,331	
		教育研究経費	1,105,642	1,090,704	14,938	
		管理経費	459,768	446,574	13,194	
		教育活動支出計	3,786,820	3,729,357	57,463	
	教育活動収支差額		△ 342,957	△ 269,798	△ 73,159	
	II 教育活動 外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	18,465	12,793	5,672
			教育活動外収入計	18,465	12,793	5,672
事業活動 支出の部		借入金等利息	12,383	12,383	0	
		教育活動外支出計	12,383	12,383	0	
教育活動外収支差額		6,082	410	5,672		
経常収支差額		△ 336,875	△ 269,388	△ 67,487		
III 特別 収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	0	1,670	△ 1,670	
		その他の特別収入	102,767	104,222	△ 1,455	
		内、施設設備寄付金	23,000	23,970	△ 970	
		内、施設設備補助金	70,087	70,529	△ 442	
	特別収入計	102,767	105,892	△ 3,125		
	事業活動 支出の部	資産処分差額	81,402	81,041	361	
		その他の特別支出	0	487	△ 487	
		特別支出計	81,402	81,528	△ 126	
	特別収支差額		21,365	24,364	△ 2,999	
	[予備費]		(4,900) 19,100		19,100	
基本金組入前当年度収支差額		△ 334,610	△ 245,024	△ 89,586		
基本金組入額合計		△ 464,255	△ 465,253	998		
当年度収支差額		△ 798,865	△ 710,277	△ 88,588		
前年度繰越収支差額		△ 2,920,749	△ 2,920,749	0		
基本金取崩額		224	37,175	△ 36,951		
翌年度繰越収支差額		△ 3,719,390	△ 3,593,851	△ 125,539		
(参考)						
事業活動収入計		3,565,095	3,578,244	△ 13,149		
事業活動支出計		3,899,705	3,823,268	76,437		

表5 事業活動収支計算書 経年比較表

単位：千円

区分		平成27年度 決算額	平成28年度 決算額	対前年度比較	
I 教育活動 収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	2,294,732	2,301,846	7,114
		手数料	48,387	47,055	△ 1,332
		寄付金	68,036	58,941	△ 9,095
		経常費等補助金	842,911	849,201	6,290
		付随事業収入	81,689	84,594	2,905
		雑収入	111,123	117,922	6,799
		教育活動収入計	3,446,878	3,459,559	12,681
	事業活動 支出の部	人件費	2,143,197	2,192,079	48,882
		教育研究経費	1,064,495	1,090,704	26,209
		管理経費	425,273	446,574	21,301
教育活動支出計		3,632,965	3,729,357	96,392	
教育活動収支差額		△ 186,087	△ 269,798	△ 83,711	
II 教育活動 外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	29,479	12,793	△ 16,686
		教育活動外収入計	29,479	12,793	△ 16,686
	事業活動 支出の部	借入金等利息	13,319	12,383	△ 936
		教育活動外支出計	13,319	12,383	△ 936
	教育活動外収支差額		16,160	410	△ 15,750
経常収支差額		△ 169,927	△ 269,388	△ 99,461	
III 特別 収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	122,521	1,670	△ 120,851
		その他の特別収入	177,412	104,222	△ 73,190
		内、施設設備寄付金	17,311	23,970	6,659
		内、施設設備補助金	155,702	70,529	△ 85,173
	特別収入計	299,933	105,892	△ 194,041	
	事業活動 支出の部	資産処分差額	10,223	81,041	70,818
		その他の特別支出	0	487	487
		特別支出計	10,223	81,528	71,305
特別収支差額		289,710	24,364	△ 265,346	
[予備費]				0 0	
基本金組入前当年度収支差額		119,783	△ 245,024	△ 364,807	
基本金組入額合計		△ 819,784	△ 465,253	354,531	
当年度収支差額		△ 700,001	△ 710,277	△ 10,276	
前年度繰越収支差額		△ 2,220,748	△ 2,920,749	△ 700,001	
基本金取崩額		0	37,175	37,175	
翌年度繰越収支差額		△ 2,920,749	△ 3,593,851	△ 673,102	
(参考)					
事業活動収入計		3,776,290	3,578,244	△ 198,046	
事業活動支出計		3,656,507	3,823,268	166,761	

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、法人設立から当該年度末時点までの、累積された財産の状況をあらわすためのものである。

表6は、平成29年3月31日時点の貸借対照表である。

資産の部は、短期大学及び幼稚園部門で特定資産の取崩しをおこない有形固定資産（施設設備）の取得等を行なったことから、特定資産が減少、有形固定資産が増加した。旧施設の除却や減価償却により、対前年度比較で306,118千円の減少となった。

負債の部は、固定負債の減少（高校部門の借入金の返済等）により、対前年度比較で61,095千円の減少となった。

純資産の部は、有形固定資産の取得により基本金組入れを行い、基本金が増加し、繰越収支差額は△3,593,851千円（支出超過）となった。（事業活動収支計算書の繰越収支差額と一致）

表6 貸借対照表（平成29年3月31日時点）

単位：千円

資産の部				
科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
固定資産	15,211,424	15,134,060	14,935,238	△ 198,822
有形固定資産	11,957,303	12,391,828	13,136,659	744,831
特定資産	3,234,272	2,728,860	1,772,238	△ 956,622
その他の固定資産	19,849	13,372	26,341	12,969
流動資産	1,227,295	1,372,639	1,265,343	△ 107,296
資産の部合計	16,438,719	16,506,699	16,200,581	△ 306,118
負債の部				
科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
固定負債	1,399,720	1,339,883	1,293,317	△ 46,566
流動負債	669,174	677,208	662,679	△ 14,529
負債の部合計	2,068,894	2,017,091	1,955,996	△ 61,095
純資産の部				
科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度比較
基本金	16,590,573	17,410,357	17,838,436	428,079
繰越収支差額	△ 2,220,748	△ 2,920,749	△ 3,593,851	△ 673,102
純資産の部合計	14,369,825	14,489,608	14,244,585	△ 245,023
負債及び純資産の部合計	16,438,719	16,506,699	16,200,581	△ 306,118

2 財務比率の比較

表7から表9のとおり、各計算書から、財務比率の経年比較を行なった。

表7 事業活動収支計算書関係の財務比率

事業活動収支計算書 関係比率

		平成26年度 (旧会計基準)	平成27年度	平成28年度	平成27年度 全国大学法人 (医療系除く) 平均比率※1
人件費比率 人件費 ----- 経常収入※2	法人全体	57.5%	61.7%	63.1%	53.7%
	大学	59.4%	57.2%	59.6%	
	短期大学	49.3%	64.6%	63.6%	
	高校	64.5%	68.2%	71.8%	
	幼稚園	55.9%	58.0%	57.9%	
教育研究経費比率 教育研究経費 ----- 経常収入※2	法人全体	28.0%	30.6%	31.4%	33.2%
	大学	34.7%	36.8%	31.0%	
	短期大学	24.0%	25.4%	34.8%	
	高校	24.0%	27.9%	26.3%	
	幼稚園	19.6%	24.6%	65.1%	
学生生徒等納付金比率 学生生徒等納付金 ----- 経常収入※2	法人全体	63.5%	66.0%	66.3%	73.7%
	大学	79.8%	81.4%	78.8%	
	短期大学	62.0%	66.0%	73.2%	
	高校	46.6%	49.1%	47.7%	
	幼稚園	32.6%	32.6%	31.0%	
補助金比率 補助金 ----- 事業活動収入※3	法人全体	22.9%	26.4%	25.7%	12.5%
	大学	15.3%	15.5%	13.7%	
	短期大学	14.2%	25.4%	20.3%	
	高校	40.9%	43.0%	45.9%	
	幼稚園	54.7%	53.8%	61.9%	
経常補助金比率 経常費等補助金 ----- 経常収入※2	法人全体		24.2%	24.5%	12.0%
	大学		14.8%	13.8%	
	短期大学		17.7%	17.4%	
	高校		42.6%	45.6%	
	幼稚園		53.9%	55.1%	
事業活動収支差額比率 基本金組入前当年度収支差額 ----- 事業活動収入※3	法人全体	3.8%	3.2%	-6.8%	4.7%
	大学	-6.0%	-5.4%	-2.4%	
	短期大学	16.6%	19.6%	-13.0%	
	高校	2.6%	-5.8%	-6.4%	
	幼稚園	17.7%	11.4%	-38.8%	
経常収支差額比率 経常収支差額 ----- 経常収入※2	法人全体		-4.9%	-7.8%	3.4%
	大学		-6.7%	-2.7%	
	短期大学		-4.5%	-17.3%	
	高校		-6.7%	-7.4%	
	幼稚園		11.2%	-38.3%	
教育活動収支差額比率 教育活動収支差額 ----- 教育活動収入計	法人全体		-5.4%	-7.8%	1.8%
	大学		-6.7%	-2.8%	
	短期大学		-7.3%	-18.2%	
	高校		-5.6%	-6.4%	
	幼稚園		9.4%	-39.4%	

※1 平成28年度版「今日の私学財政」から引用した。

※2 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計 である。

※3 事業活動収入は、旧会計基準の帰属収入と一致する。

※4 表中の■は、旧会計基準での計算方法であり、平成27年度以降の数字と単純比較できない。

表8 貸借対照表の財務比率

貸借対照表 関係比率

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度 全国大学法人 (医療系除く) 平均比率※1
特定資産構成比率 特定資産 総資産	法人全体	19.7%	16.5%	11.0%	21.3%
	大学	6.8%	7.1%	7.1%	
	短期大学	23.2%	13.7%	8.2%	
	高校	6.4%	7.0%	7.4%	
	幼稚園	74.3%	74.3%	1.7%	
純資産構成比率 純資産 負債+純資産	法人全体	87.4%	87.6%	88.2%	87.5%
	大学	71.8%	71.4%	71.4%	
	短期大学	88.2%	88.6%	88.5%	
	高校	59.3%	59.4%	59.5%	
	幼稚園	99.1%	99.2%	99.0%	
流動比率 流動資産 流動負債	法人全体	183.4%	202.7%	190.9%	254.1%
	大学	166.5%	172.8%	205.7%	
	短期大学	163.0%	227.6%	146.9%	
	高校	205.2%	177.1%	140.2%	
	幼稚園	898.6%	1010.1%	1740.6%	
負債比率 総負債 純資産	法人全体	14.4%	14.1%	13.4%	14.3%
	大学	39.3%	40.0%	40.1%	
	短期大学	13.3%	12.8%	13.0%	
	高校	68.8%	68.4%	67.9%	
	幼稚園	0.9%	0.8%	1.1%	
積立率 運用資産(現金預金+有価証券+特定資産)..... 要積立額(減償の累計額+退給引当金+2基+3基)	法人全体	72.7%	61.2%	48.3%	80.2%
	大学	35.2%	34.9%	35.4%	
	短期大学	107.0%	69.2%	48.4%	
	高校	67.1%	63.1%	50.6%	
	幼稚園	112.1%	111.6%	293.5%	
繰越収支差額構成比率 繰越収支差額 負債+純資産	法人全体	-13.5%	-17.7%	-22.3%	-13.6%
	大学	-37.2%	-38.9%	-40.1%	
	短期大学	37.7%	29.2%	23.2%	
	高校	-22.9%	-25.1%	-28.0%	
	幼稚園	18.2%	17.6%	10.1%	

※1 平成28年度版「今日の私学財政」から引用した。

表9 活動区分資金収支計算書の財務比率

活動区分資金収支計算書 関係比率

		平成26年度 (旧会計基準)	平成27年度	平成28年度	平成27年度 全国大学法人 (医療系除く) 平均比率※1
教育活動資金収支差額比率 教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	法人全体	10.6%	6.4%	3.4%	13.4%
	大学	10.9%	7.1%	7.1%	
	短期大学	7.9%	-3.5%	2.7%	
	高校	8.8%	11.4%	1.8%	
	幼稚園	22.8%	16.1%	-42.1%	

※1 平成28年度版「今日の私学財政」から引用した。

※2 表中の ■ は、旧会計基準でのCF計算書に基づく教育研究活動収支差額比率。

3. 補助金と施設設備整備の状況

(1) 補助金の状況 法人全体 総額919,730千円 (対前年度比較△78,883千円)

ア 仁愛大学 総額218,251千円 (対前年度比較△15,537千円)

単位：千円

区分	補助金の内容		金額
国庫補助金 197,912 (△18,578)	経常費	一般経常費補助、特別補助	191,232
	その他	原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金	2,363
		COC+大学改革推進等補助金	4,317
地方公共団体補助金 20,339 (+3,041)	経常費	県教育振興補助金	14,310
	その他	県内大学生定着促進事業補助金	5,917
		結核予防費	112

※補助金の他、越前市から平成28年度仁愛大学土地無償使用分として、計12,110千円相当の支援を受けている。

イ 仁愛女子短期大学 総額170,077千円 (対前年度比較△120,549千円)

単位：千円

区分	補助金の内容		金額
国庫補助金 167,189 (△121,945)	経常費	一般経常費補助、特別補助	132,747
	施設設備	防災機能強化事業補助金(耐震改築) …△館解体	32,064
		私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金 …幼児教育学科 発表用設備等を購入	2,378
地方公共団体補助金 2,888 (+1,396)	その他	県内大学生定着促進事業補助金	2,796
		結核予防費 他	92

ウ 仁愛女子高等学校 総額430,895千円 (対前年度比較+22,533千円)

単位：千円

区分	補助金の内容		金額
国庫補助金 6,263 (△753)	施設設備	私立学校施設高度化推進事業補助金 …借入金の子利子助成	5,799
		理科教育設備整備費等補助金 …グローバルサイエンスコース用備品を購入	464
		地方公共団体補助金 424,632 (+23,286)	経常費
		市教育振興補助金	381
	施設設備	県教育振興補助金 …遠隔授業・研修システム備品を購入	424
	その他	県就学支援事業補助金	39,842
		県就学支援事務費交付金	1,459
		県ふるさと人材育成支援事業補助金	4,884
		結核予防費	134

エ 附属幼稚園 総額100,507千円 (対前年度比較+34,670千円)

単位：千円

区分	補助金の内容		金額
地方公共団体補助金 100,507 (+34,670)	経常費	県教育振興補助金	38,795
		市教育振興補助金	2,470
	その他	就園奨励費(福井市)	23,978
		就園奨励費(坂井市)	2353
		預かり保育推進事業	2,300
		2歳児受入推進事業補助金	1,200
		特別支援教育事業補助金	392
		改築補助	29,019

(2) 主な施設設備の整備状況

単位：千円

	整備の内容		金額
仁愛大学	設備	E103 CG演習室 教育用コンピュータ及びソフトウェア更新	20,354
		図書館 情報管理サーバー等 更新	5,352
		A301教室等AV機器整備	3,590
		情報ネットワーク管理室 学生貸出用PC20台等 更新	2,768
	改修	巖グラウンド法面補修工事	5,832
		E号館2階廊下サッシ修繕工事	3,240
北側駐車場浄化槽基礎修繕工事		1,058	
仁愛女子短期大学	施設	B館1・2階改修工事 (備品等全て含む)	332,203
		外構整備工事	160,212
		A館解体, 渡り廊下設置, 守衛室建築等工事 ※ (備品等全て含む)	115,448
	設備	C102パソコン演習室 パソコン等一式	13,889
		幼児教育学科 発表用設備一式 ※	3,326
仁愛女子高等学校	設備	教職員用PC77台入替更新	11,448
		GSコース使用タブレット29台	2,377
		理科実験機器一式 ※	930
		放送設備機器セット・移動式スクリーン (卒業記念品)	1,142
	改修	中角体育館バスケットゴール電動ウインチ交換工事	1,300
		北館防音対策サッシ取付工事	920
附属幼稚園	施設	新園舎建築工事 (備品等全て含む) ※	572,402

※印 …… 補助金対象事業